

松川村議会

第130号
平成20年10月15日



平成20年7月15日 近藤栄養士による食育研修

平成20年第3回定例会提出案件

平成20年第3回定例会が9月11日から24日まで開催されました。付議された案件は22件で、そのうち平成19年度各会計決算は例年の通り特別委員会を設置して審査し、意見を付しました。(次ページ参照)

冒頭、川上代表監査委員から決算審査について、「一般会計・特別会計それぞれ、決算計数はいずれも符合して誤りのないことを確認した」と報告されました。

提出された案件はすべて可決、承認されました。

閉会で、平林村長から「監査委員からも指摘された村税等未収金について職員ともども収納にがんばりたい」とあいさつがあり14日間の定例会が閉会しました。

平成19年度各会計決算を認定 決算に基づく健全化判断比率 県下19番目

※健全化判断比率…市町村などの財政破綻を未然に防ぐための「地方公共団体財政健全化法」が制定され、財政状況を手エックするため実質公債比率などの4指標が定められた。

平成19年度決算からの公表が義務付けとなった。

実質公債費比率は県下81市町村中、19番目に良い状況にある。

- 【条例】 松川村公益法人等への職員の派遣等に関する条例の一部改正など3議案 賛成全員可決
- 【予算】 平成20年度一般会計補正予算など7議案 賛成全員(一部多数)可決
- 【決算】 平成19年度一般会計歳入歳出決算書など7議案 特別委員会へ審査付託
- 【その他】 字の区域の廃止など5議案 賛成全員可決
- 【報告】 平成19年度各会計決算、陳情など5件 賛成全員(一部多数)承認

陳情

- 【採択】 燃料、肥料、飼料、農業資材等の価格高騰に対する緊急対策を求める陳情
- 【不採択】 ミニマムアクセス米の輸入停止を求める陳情
- 【継続審査】 私立高校に対する大幅公費助成をお願いする陳情書
- 「協同出資・協同経営で働く協同組合法」(仮称)の速やかな制定について意見書の提出を求める陳情

19年度決算への議会意見 決算特別委員会

議会では、決算特別委員会を設け、各会計について予算が適正に執行されたかを慎重に審査し、下記のような意見を付けました。



共通事項

- 税等の収入未済額が増加している。これは、税負担の公平性を欠き、財政面での影響も大きい。収納対策に職員体制等も十分に考慮し、なお一層努力されたい。
- 燃料等の高騰が大きな負担になっているが、更なる経費節減に努力されたい。

- 総務課** ○自治組合未加入者が多い、行政区などの協力を得ながら加入促進を図られたい。
- 環境福祉課** ○大課制を敷き、予算規模及び事業内容において膨大となっているが、各種事業への前向きな取り組みは評価できる。
○社会就労センターは、社会情勢の変化する中、運営は良好であり努力のあとが見える。
- 経済課** ○すずむし荘の運営は厳しい状況にあるが、リニューアルも視野に経営改善に創意工夫されたい。
○農村婦人の家の利活用について再検討されたい

第2回臨時会

農業委員会委員を推薦

平成20年7月15日

農業委員会委員に2氏を議会推薦しました。

平林芳子（東部）

矢口徳子（細野）（敬称略）

今後のご活躍を期待します。

その他、国民健康保険税条例の一部改正を議決しました。

全議員の提案により国へ意見書を提出 定例会最終日に議決

「ミニマムアクセス米に関する意見書」

農家は安心・安全な食料を提供し、国際情勢・国の政策に沿うべく必死に生産努力をし、美しい農村景観を守り荒廃農地を出さないよう努めている。

また、日本の主食である米は自給できる農産物であり、米価の適性を維持するために生産調整までしながら、ウルグアイラウンド農業合意のルールを守るためミニマムアクセス米輸入も容認せざるを得なかった。

こつこつ経過を考えると、今回の「三笠フーズ」をはじめとする事故米・汚染米転売は、日本の食の安全を根底から揺るがす大変に許されざる事件である。これは農林水産省の、農家・消費者に対する裏切り行為である。

よって、今後について、以下のことを強く要求する。

1. 不正転売を見逃した農林水産省の責任を明確にし、流通ルートの透明化と徹底したチェックを行い、再発防止策を講ずると共に食の安全性確保を行うこと。

2. 検査を厳重に行い、汚染米等事故米は輸出国に返還すること。

3. トレーサビリティを義務づけると共に実効ある施策を行うこと。
〔生産履歴管理システム〕

4. 貿易交渉に向けミニマムアクセス米の数量削減を進めること。

意見書提出先

衆議院議長 参議院議長 内閣総理大臣

農林水産大臣 消費者行政推進担当大臣

社会福祉文教常任委員会

委員会報告

総務産業建設常任委員会

地域観光の活性化に村内視察

平成20年6月19日

国営アルプスあづみの公園（大町・松川地区）の一部開園に向け、観光に携わる方や農産物を都会の人々に販路を拡大している方へ、地域の活性化に役立てようという意見や問題点を聞くために視察を行いました。その中で、堀金・穂高地区と大町・松川地区を結ぶ道路としての県道大町有明線の整備計画

公園開園に対しての村の参加・参入イベントへの対応・体制
村遺跡公園を含めた周辺の整備計画
JR信濃松川駅から国営公園へのアクセス

村社会体育施設と村社協

平成20年6月23日

あいにくの雨でしたが、馬羅尾のマレットゴルフ場の発着地点および、9ホール増設予定地を視察しました。村からの説明を聞き、グラウンド周辺が増設地となるなら、安全確保を十分検討し設計するよう要望しました。続いて、村社会福祉協議会のゆうあい館を視察し、住みやすい村になるよう努力する」という基本理念のもと取り組んでいる事業について各係長から説明を受け、事業量が膨大となつて



馬羅尾で現場を確認

道の駅からすずむし荘、ちひろ美術館へのアクセスなどが提起され、後日、村長部局と話し合いをもちました。



かぼちゃ山農場で懇談

これら問題に、委員からの提言や村長の考えが出され、安曇野の風景を大切に村民と観光客との交流、県や関係団体と連携を密にし、活性化を図っていくと示されました。

今後は、たくさん観光客が訪れることが予想され、特色ある観光施策が必要となつてきます。村主催の「村を元気にする」講演と合わせ、村おこしのため活発な意見交換ができました。

いるが、休暇は取れているか」との質問に「いつも疲れを解消できない状態があり、休暇を連続で取れたらと思つので検討している」との話もありました。

また、児童の居宅介護事業や介護保険の法改正などの事業の遂行には、民生児童委員との連携や活動内容の見直しも大切であるとの説明がありました。



ゆうあい館で研修

委員会では、国保の法改正の内容と村の取り組みなどの研修や福祉施設での各種行事にも積極的に参加し福祉の現場への理解も深めています。研修視察で学んだ成果を、今後の活動に生かしていきたいと思つています。

福祉関係研修会

議員研修

平成20年7月15日

命を守る食への取り組み

食育委員会

すべての生き物が、「食」によって命を維持していますが、この大切な「食」に関して、いま、偽装表示や異物毒物の混入など信じがたい状況です。

私たちは自分で安全を確認し、安心して食えることが生きる基本だと思つていますが、幼児から児童生徒は大人が守つて育てる責任があります。

そこで、議会では5人の食育委員会を立ち上げ、食の安全・食育への取り組みなど、松川村として特徴ある取り組みへ前向きに活動しています。

7月1日、先進的な安曇野市堀金学校給食センターを議員全員で早朝の地域の食材搬入の様子

在宅福祉・包括支援・保健福祉などの業務について全議員で研修会を開催しました。

今年度から始まった新規事業および今までと内容の変更となつた点などについてを重点に、福祉の現状なども合わせて研修しました。

在宅福祉は、村保健センターで事務を行っています。障害者自立支援では「どんな障害の方も地域で安心して暮らせるように……」と共通の福祉サービスが受けられるよう、相談しながら利用計画を作つて推進してい

子から視察し、地域が一丸となつて、きめ細やかにしかもちょうどな発想で取り組む「食」へのうらやましいほどの輝く取り組みを見ました。

次には松川小学校で給食を食べ、センターの栄養士から食育の大切な話と、各学校を回つて現場の声を子供たちから聞き、献立に生かしている努力と成果を聞きました。



堀金学校給食センター

今後は、給食野菜組合ほか生産者の方と懇談するなど、食を積極的に考える活動に取り組んでいきます。

説明を聴き、利用者にやさしく、よりよいサービスの提供を、また児童クラブは、登録者が昨年124名で今年146名と大幅に増加しているが、子育て対策になお一層取り組んでほしい」と要望しました。

また、今年度から特定健診と特定保健指導での生活習慣病予防事業が始まり、対象者1883名のニーズに合わせて進めている状況を確認し、受診者の健康維持と医療費抑制取り組みの成果を期待します。

海外視察研修

平成20年7月7日～12日

議会は、1期4年間のうち、議員活動として海外の先進地視察を計画し、視察の意義や必要性を協議し、高齢化問題と農業自給率を学ぶために世界の先進地、北欧のスウェーデン・デンマークを視察地として決めました。

ハードな日程でしたが天候に恵まれ、みな元気に視察できました。

高水準の福祉国家スウェーデンの首都ストックホルムは、ノーベル賞授賞式で知られ、今は福祉・教育王国として世界の関心を集めています。

過去2000年戦争の無い中立国で、高齢化は日本より先に到来しましたが、今は安定期とのことです。

税金は収入の平均55%を納めますが、国と自治体の努力で「ゆりかごから墓場まで」と言われているとおり、国民は安心して生活しています。

老人ホームなどは街中に建てられ、高齢者の社交性を奨励、在宅を支援し、障害者の補助用具なども工夫さ



れていました。

農業輸出国であるデンマークは、社会全体の関心が農業以外に向いているようですが、その自然・環境を生かし、自給率の維持確保のために協同組合の経営、また学習会などによって福祉の向上に努め、若者に農業への興味や将来性を教育、伝達しています。



25人学級、大学までの学費無料化に取り組み、まさに福祉・教育の先進地でした。

メモを取り、常に質問し、積極的な視察行動に、添乗員からその熱心さに感心したと言われました。

このような機会を得られたことに感謝し、今後の議会活動に生かせるよう努力したいと思えます。



議会日誌

〔7月〕

5日 はつらつスポーツ大会
7日 議員視察研修（12日まで）
15日 臨時議会

〔8月〕

22日 穂高広域施設組合議会
15日 穂高・松川・大町間道路建設連絡協議会
4日 議会食育委員会
2日 ふるさと祭り

〔9月〕

22日 議会食育委員会
20日 議会報編集全国研修会（21日まで）
19日 高瀬広域水道企業団議会
15日 村成人式
4日 議会食育委員会
2日 ふるさと祭り

〔9月〕

5日 議会運営委員会 議会全員協議会
11日 平成20年第3回定例会（24日まで）
13日 松川神社秋季大祭
20日 小学校運動会
24日 秋の交通安全指導所開設
28日 南北保育園運動会
30日 白馬・小谷と3村議会交流会

ほか

7・16 地域高規格道路松本系魚川連絡道路建設促進期成同盟会
8・6 村水田農業推進協議会
8・6 県立高校再編計画懇談会
20 穂高・松川・大町間道路建設連絡協議会

9・4

20 高瀬川高水敷整備促進期成同盟会
12 県道上生坂信濃松川線停車場線整備期成同盟会
6 村社協理事会・評議員会
4 上下水道委員会

29

26 村社協理事会・評議員会
4 上下水道委員会

など

穂高・松川・大町間道路建設連絡協議会

平成20年8月20日 総会

本協議会は県道大町有明線の整備促進のため、関係市村相互の連絡調整と事業の推進を目的としています。総会において平成19年度決算を認定、平成20年度予算を議決しました。今年度は西ルートについて国営公園開園に向けた道路改良の促進、東ルートの高瀬川堤防道路は安曇橋南・高瀬橋西交差点の立体化について県および地元県議会議員に要望書を提出しました。

高瀬広域水道企業団

平成20年8月19日 定例会

平成19年度高瀬広域水道企業団会計決算を認定しました。大町市、池田町、松川村の3市町村の水道水供給事業として上水道水の確保を図り、将来の需要増に対応し、水源を大町ダムに求めたもので、ダム建設費の借入金元利償還金と事務費を、関係市町村の負担金で補うものです。

穂高広域施設組合

平成20年7月22日 臨時会

平成19年度一般会計補正予算、平成20年度一般会計補正予算をそれぞれ議決しました。

当施設組合は、1市（安曇野市）1町（池田町）4村（松川村、生坂村、筑北村、麻績村）で構成し、し尿・じんかいを処理、余熱利用施設管理、経営しています。

20年度予算で歳入の内、分担金として松川村では約9041万円を支出します。

一般質問 7人の議員が登場

平成20年9月19・22日



白澤議員

村長の政治姿勢

問 多目的センター完成後、今の公民館・就業改善センターの利用は。

答 庁内会議で6回検討した。公民館については民俗資料、安曇節資料、遺跡などの保管・展示などに活用し、就業改善センターは民俗資料の農機具関係を保管したい。

問 現在の民俗資料保管場所の旧第2倉庫は耐震診断の結果、危険度が高いので取り壊すと聞くが。

答 多目的センター完成後取り壊しを考えている。

問 子育てリンリンセンターの現状は。

答 数件の相談があった。新たに専門のカウンセラ―を置き対応し、小・中学校の不登校も徐々に減っており、成果が出ている。

問 児童クラブの状況は。

答 基本的に3年生以下で、4年生以上は特別認められたものとし、年々利用者も増えており、スタッフを増やす中、児童の安全確保に努めている。

問 4年生以上を対象にした放課後子ども教室の計画は。

答 21年度から実施していく。希望するすべての児童を受け入れたい。

問 松くい虫の現状は。

答 確認されていないが定期的パトロールなど監視をより強化し、万全を期したい。

問 有害鳥獣の対策は。

答 カラスが増えている。今年は200羽駆除を計画している。

問 税などの未収金が増加しているが、口座振替の再引落しなどの取組みはどうか。

答 再引落しは検討する。各課連携し、納税相談などに力を入れていきたい。



渡邊議員

後期高齢者医療制度実施後の問題点

問 制度が実施され半年が過ぎ、高齢者や国民の怒りが全国に広がっている。感想はどうか。

答 その通りだと思う。

問 村の保険料の納入状況はどうか。

答 対象者は1533人うち41人が保険料未納となっている。

問 この制度は高齢者だけでなく、全ての世代に新たな負担と犠牲を強いるもので、根本的に欠陥制度であり廃止すべきだと思うがどうか。

答 国は制度の改善を目指している。見守りたい。

問 松川農業の直面する課題

答 ミニマムアクセス米輸入を中止し、減反政策を見直すべきだがどうか。

問 個人的には同感だが、世界の中での約束であり難しい。

問 石油などの高騰に対する支援はどうか。

答 すでに農業者には特別支援をしている。村民全体として検討したい。

問 南神戸区騒音問題

答 3月に結ばれた4者協定の進捗状況はどうか。

問 業者移転先の地元協議が若干遅れている。

答 期限が明記された協定の遵守を強く求める。努力する。

問 学校の給食での地産地消の取組みは。

答 国の食育計画では、現状よりも30%地元のものを使用する目標が示されている。村としても取り入れたい。

問 栄養教諭の配置計画は。

答 県教委の計画では平成24年までに60名確保。各学校や給食センターへ配置がされる。

問 池田松川学校給食センター建替への検討は。

答 学校給食施設を考える会が近々発足し、そこで検討がされる。



平林 寛 議員

施設の老朽化と指定管理者制度の導入は

問 南保育園は年々高額な修繕費がかかっているが建替への考えは。

答 築後32年が経過。21年度策定する第6次総合計画に改築を明記したい。

問 すずむし荘も老朽化が進み、改修代が増額している。リニューアルなど計画の検討は。

答 運営委員会で検討し

問 食育と学校給食

問 教育現場での食育の取組みの状況は。

答 県教委の指導により小中学校で食に関する指導計画を策定。それにより各学年・教科ごとに取組みをしている。

問 地場産の食材が体に一番いいと言っているが、野菜は19年度実績で池田松川合わせて13%くらい。

問 地場産品が入りにくい理由は。

答 時季的な事、必要量の確保が問題かと思う。

問 村の各生産団体が協力すれば食材提供できるのでは。

答 生産者の窓口を一本化し、給食センターと連携を密にする事が重要。

問 子どもたちのために地域の人々が参加しやすい給食センター建設を。

答 検討結果が出たら素晴らしい施設を建てたい。



横沢議員

問 公の施設への指定管理者制度の導入の検討は。

答 各課で施設ごとに検討中。12月までに村長に報告し、その後庁内会議で検討していく。

問 村の食育推進を図るため、どのような計画で進めていくのか。

答 今、事務者レベルで素案づくりを進めている。

問 学校給食での地産地消の取組みは。

答 国の食育計画では、現状よりも30%地元のものを使用する目標が示されている。村としても取り入れたい。

問 栄養教諭の配置計画は。

答 県教委の計画では平成24年までに60名確保。各学校や給食センターへ配置がされる。

森林整備事業

将来に向け望ましい森林にするための施策は、水源涵養林として残していきたい。

災害防止のために植林事業の推進を。

今後植樹祭を植林事業として継続したい。

森林整備の体制づくりが必要と思うが。

他町村に遅れをとらないよう取組みたい。



河内議員

学校給食センターへの取組み

松川村単独のセンター建設の考えは。

現在は白紙の状態。「学校給食施設を考える会」でどのような方式が良いか検討がされる。

自校給食の考えは。

自校方式、センター方式どちらもメリット、デメリットがあり十分検討が必要。

給食の大切さを知るためには現場を見ること

も大事。子どもたちはセンター見学をしているが、栄養士が学校に出向いて指導している。生ごみの減量を

生ごみ処理機購入補助金の効果は。

平成12年より218件の補助。有効活用がされていると判断している。

可燃ごみの推移は。19年度は前年比7トンの減量となった。

家庭の生ごみは安全安心な有機肥料。村民の協力により、生ごみを資源として活用し、可燃ごみを半減するくらいの意識込みで取組んでほしい。

村民へのPRに努め、可燃ごみの減量に取組んでいく。



榛葉議員

子育て支援について

南北保育園でクラスの違いがあるが、園児数に差があるが。

定員数が違うためやむを得ない。入所先は親の希望を優先している。

北が過密状態だ。フリーの保育士の配置が必要では。21年度は対応できるよ努力したい。

子育て支援ルーム、一時保育の利用状況は。

383組の親子と一時保育は146名が利用されている。

食育計画はどうか。現在、年齢別の指導計画づくりを進めている。

公民館の後利用は。児童館としての利用の検討はしたか。

検討はした。安全面を考慮したバリアフリー化、天井の高さ、暖房、水周りなどの改修工事にも多額の費用が必要となる。

村長の政治姿勢

学校給食へ安全な地元野菜の供給策は。

営農支援センターを窓口給食野菜組合と連携して進めている。

食育推進のため給食センターの栄養士を増員できないか。

県へ要望をしている。

「すずむしの里」づくりPRの取組みは。

秋田のすずむしサミットに出席した。今年、

すずむし宅配便も好調であり、さらにイメージアップに努力したい。



佐藤議員

19年度決算と今後

村の財政は健全だが未収が1億を超えた。

職員には収納率向上を徹底し村民には納税相談について広報で知らせていきたい。

公共施設の燃料費高騰対策として深夜電力でお湯を沸かすエコキュートはどうか。

研究も必要と考える。

すずむし荘のリニューアル、駅からハイキングの結果は。

施設の診断を行い、指定管理者制度と合わせ検討したい。ハイキングは128名の参加で松川村を堪能し好評だった。

国営公園入園者見込みと交通対策はどうか。

年間20万人と見込んでいます。松川駅からりん号のアクセスで、特急3本の停車をJR長野

県と県警に陳情 平成20年9月4日

陳情 県道上生坂信濃松川停車場線の整備促進に関する陳情を同盟会役員で、県に行いました。対応腰原副知事、土木部長他 国道19号線と国道147号線を結ぶ重要路線として特に池田町と生坂村の境界付近の連続急カーブの

解消、路巾拡幅、路面アスファルトオーバーレイ等を陳情しました。要望 県警本部長に駐在所老朽化に伴い、信濃松川駅前駐在所を村長・副村長・正副議長で陳情しました。県の財政状況等から、駅前駐在所として現在地から駅前へ移転することで話を進め、今度用地確保ができたことから、21年度移転の実施に向け要望しました。

支社に要請している。道の駅の営業時間を1カ月延長したが効果は。もう少し長い期間で判断したい。勤労者互助会制度は事業主にもメリットがある。未加入事業者へのPRはどうか。商工会と連携し推進を図りたい。安心安全の村づくり 村内在住の外国人は何名か。ゴミ出しなどで言葉の問題があると聞く。215名が在住。中国語、ポルトガル語のポスターをゴミステーションに貼った。自治組合と協力し対応していきたい。

お知らせ

定例会等会議録が、村のホームページでご覧いただけるようになりました。ホームページアドレス <http://www.vill.matsukawa.nagano.jp>